

## <記述問題>

### 1. 指宿の歴史

〔問題〕 次の説明中の空欄を埋めなさい。

〔1〕 古墳といえばヤマト政権のシンボルだが、指宿はこれまで「古墳の空白地帯」と見られていた。しかし、平成10年に火山灰の下から円墳が見つかった。この円墳は、**弥次ケ湯古墳**と呼ばれている。

〔2〕 中世の揖宿郡はまことに面白い。だが、その内情はまことに複雑怪奇。しかし、その支配者をざっくりいえば、平安時代の貴族政権から続く**郡司**と、新しく武家政権が発令した**地頭**との対立・抗争、併存状況だった。

〔3〕 今和泉島津家は島津家の**一門家**といわれる。加治木・垂水・重富とならぶ「四家」の一つだからだ。しかし、なぜ今和泉島津家が改めて創設されたのか、なぜ和泉家という名が復活されたのかなどよく分かっていない。

〔4〕 国道226号沿いの宮ヶ浜地区には、明治から昭和初期にかけての**商家群****(建物群)**が残っている。これは、往時の宮ヶ浜一帯がいかに繁栄していたかの証左であり、その評価は「国登録有形文化財」にもなっている。

### 2. 指宿の文化

〔問題〕 次の説明中の空欄を埋めなさい。

〔1〕 「いぶすき」という地名は、古文書等でもさまざまな表記がなされている。だが、**指宿** **揖宿** **湯豊宿**などが代表的なところである。

〔2〕 **瘡瘡踊**は、日本的にみても珍しい伝統芸能だ。その昔、天然痘が流行し、その対策に悩んだ庶民たちが神々に祈り、その退散を祈願したことにはじまるという。山川成川の前藪馬方踊などが有名である。

〔3〕宝暦治水工事は、江戸期の薩摩藩にとってまことに難儀な仕事であった。難儀の理由は技術的なものばかりではない。まさに経済的な負担の多さも難儀の理由であった。それを補うために、現地の薩摩武士たちが内職ではじめ、それを薩摩に伝えたのが薩摩つげ櫛である。その貴重さは県の伝統工芸品にも指定されているほどである。

### 3. 指宿の産業経済

〔問題〕 次の説明中の空欄を埋めなさい。

〔1〕指宿の観光がメジャーになったのは高度経済成長期以後（昭和40年前後・新婚旅行ブーム）からである。それまでは温泉などが一部に知られてはいたものの、ひなびた一地域にすぎなかった。

〔2〕指宿の農業生産物で「かごしまブランド」の産地指定がなされているのは、そらまめと実えんどうだ。また、レディースフィンガーとも呼ばれる栄養豊富なオクラも、日本一の生産量である。まさに指宿農業の牽引車だ。

〔3〕いま、「かつてないほどの勢いで魚離れ」が進んでいるといわれる。しかし市内には5つの漁港と4つの港湾、3つの漁業組合があり、沖合・沿岸の漁業が盛んである。海に面した海岸の長さからも、今後の充実が望まれる。

〔4〕山川で「かつお節」生産がはじまったのは、明治43年のこと。それから約1世紀。現在、全国の75%は鹿児島産で占められているが、そのうちの3割が山川産である。なかでも本枯れ節に限っていえば、山川産が全国生産量の7割を占めている。日本料理における「味」の決め手として有名だ。

## <論述問題>

※論述問題においては、固有名詞をひらがな表記にしても構いません。

### 4. 指宿の歴史

#### 〔問題〕

今年(明治維新150年)のことから西郷隆盛に関するイベントが多い。そこで山川と西郷との関係について、以下の語句を使いつつ、その概要を説明しなさい。なお字数は300字以内です。

また、解答にあたっては、かっこ書きの西暦は省略可とします。

- (1) 安政5年(1858)12月
- (2) 文久2年(1862)2月
- (3) 同年5月
- (4) 元治元年(1864)3月
- (5) 明治7年(1874)旧暦12月27日

#### 【模範解答】

西郷が山川港に初めて姿を見せたのは、安政5年12月のこと。月照との入水後、蘇生した西郷が奄美に流される時に山川港で風待ちした。

文久2年2月には、奄美潜居後に帰省した西郷の指宿温泉湯治がある。同年5月には島津久光の激しい怒りに触れて、罪人として徳之島に送られることになり、その船が山川港に係留された。元治元年3月には政局の中心地 京都に向かう船が鹿児島を出帆したが、この船中に西郷の姿があった。折から雨天となり、山川港にしばし滞船したのである。

明治7年旧暦12月27日には、いわゆる「征韓論争」に敗れた西郷が、犬13匹を連れての鰻温泉逗留がある。

<270字>

<テキスト171から172>

## 5. 指宿の産業・経済

### 〔問題〕

指宿の大自然の成り立ちからして、地中には大量の地下資源が眠っている。とりわけ「大谷鉱山」における金の採掘が有名だ。ついては、下記の語句を使いつつ、鉱山の概要を説明しなさい。なお、字数は300字以内です。

- (1) 弘化元年、大谷鉱山
- (2) 地元有志の手
- (3) 三井金属鉱業株式会社
- (4) 労働者1千人近く
- (5) 昭和18年、金鉱業整備令

### 【模範解答】

弘化元年、大谷鉱山が発見された。しかし当時の技術による採掘では困難を極めたという。このため、4年後には休止となった。

しかるに、明治元年になると、地元有志の手によって再開。あたらしい時代への息吹が指宿にも吹いていたのである。しかし、民間での採掘には資金力が追いつかずに、またもや閉山の憂き目に陥った。

しかし明治20年になると、三井金属鉱業株式会社が鉱業権を取得。再びの採掘が開始された。明治40年頃には最盛期を迎え、労働者1千人近くが採掘作業に従事したという。

しかし、戦中の昭和18年、金鉱業整備令が施行されて金の採掘が禁止されてしまった。

〈270字〉

〈テキスト39から40〉